

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属小学校・教諭

氏名 寺島 克郎

研究期間 平成29年度

研究プロジェクトの名称	相手意識と目的意識のはたらきに着目した言語運用学習モデルの構想 －葉書を主とした通信文作成を中核とした活動づくり－
研究プロジェクトの概要	<p>本研究プロジェクトは、小学校3年生を対象とし、葉書を主とした通信文を中核として活動をつくる点、及び、そこで言語感覚のはたらきに着目する点に特色がある。</p> <p>小学校3年生にとって葉書を主とした通信文は、強い相手意識や目的意識に支えられ、個の創造性を多様に発揮しながら探究を深められる活動であると考え。それまでの生活経験や教科書教材文などを通して出あってきた通信文に関する語句・語彙の運用など、個の中に蓄積されてきた言語感覚が自己の表現を構成する際に発揮されると考える。</p> <p>子どもが、葉書を主とした通信文をつくることを通して、言語感覚をはたかせながら言葉の多様性についての気づきをひろげると同時に、多様な言葉を目的に応じて意図的に構成し表現する過程に着目する。</p>
研究成果の概要	<p><b>○伝えたい内容を貯め、「はがき」の魅力にふれる子ども</b></p> <p>総合的な教育活動の時間に学校周辺の川、公園、朝市を巡ったり、市の西部に位置する金谷山の自然とふれ合ったりしてきた子どもに、めぐった先々で見つけたり、味わったりしたことをはがきに記して家族に宛てて投函することを提案した。</p> <p>はがきを受け取った子どもは早速書き始めた。お母さんに、お父さんに、妹に、離れて暮らすおじいちゃんに。子どもは、学校の外で活動しながら感じたり考えたりしたことをたっぷりとためていた。子どもははがきの可能性に一気に引き込まれた。金谷山の散策道を歩き、おながが空いて食べたお弁当がおいしかったこと、散策道が山道を抜けてまちに出ていて驚いたこと、金谷山の展望台から眺めた景色がとても綺麗だったことなど、子どもは活動を通して感じたことを伝えようとした。</p> <p><b>○「はがき」を書く意図によって分類する</b></p> <p>「お弁当がおいしかった」ことを伝えたい子どもに対して、私は「おいしかったことをちゃんと伝えられているかな？」と尋ねた。「ちゃんと伝わっていないと、これからはお弁当を作ってもらえなくなるのではないかな」とも話した。すると子どもは、ちゃんと伝えるはがきの書き方があるのではないか、伝えたい内容によってはがきの種類が変わるのではないかと考え始めた。</p> <p>「また今度もお弁当を作ってほしいと伝えるのは『おねがいます』だよ」と子どもが話したことをきっかけに、「はがき」の性質を分類した。結果的に子どもは次のようにはがきの種類を考えた。</p>

- ・「ありがとうはがき」…お弁当を作ってくれたこと、運動会で応援に来てくれたことなどの感謝を伝えるはがき
- ・「おねがいしますはがき」…またお弁当を作ってほしいという依頼を伝えるはがき
- ・「活動はがき」…どこかへ行ったこと、何かをしたことを伝えるはがき
- ・「お招きはがき」…運動会や音楽集会に来て欲しいことを伝えるはがき
- ・「こんにちははがき」…その人に初めて書くはがき 人と人とがつながる
- ・「はじまりはがき」…何かのはじまりを伝えるはがき つながりが始まる

また、出来事（行ったよ、したよ）と気持ち（思ったこと、感じたこと）がつながっていて一緒に書くと伝わりやすいなどとも考えた。

子どもは、はがきを書く経験を繰り返しながら、もっと伝えたい、もっとかかわりたいと願い、はがきの書き方をつくり変え始めた。そして、「読みやすいつてことは伝わりやすいつてことだと思う」「はがきをもらった相手に『何だろう』って思わせるとちゃんと読んでもらえる」と考えた。

そして、それぞれのはがきには伝わりやすくなる言葉があると考えた。

- ・ありがとうはがき…おいしかった、うれしかった、こんな味だった
- ・おねがいしますはがき…よろしくね、たのんだよ
- ・活動はがき…～したよ、～へ行ったよ
- ・おまねきはがき…見てね、聞いてね、絶対だよ
- ・こんにちははがき…はじめまして、こんにちは
- ・はじまりはがき…～がはじまったよ

### ○「はがき」に限らない文章表現のコツを貯める

はがきを書き始めてしばらくすると、はがきを受け取った相手から返事が来るようになった。はがきを受け取る喜びをあげわった子どもは、はがきのさらなる可能性に目を向け始めた。特に、招待するはがきで相手を動かすことを考えた。

総合的な教育活動であじわった楽しさを表現し合う学級のイベントを企画し、お家の人を招待することにした。「来て欲しいことを伝えるはがきだから『おまねきはがき』だ」「気持ち（見てね、聞いてね、来てね）とイベントの内容を伝えるといい」と子どもは考えた。はがきを送ったり、受け取ったりする経験と、はがきの書き方を話し合う経験を重ねた子どもは「相手に届くおたよりのカギ」を見つけた。

### ○相手に届くおたよりのカギ

#### ① 文と文のつながり

- ・理由（どうしてありがとうなのか、どうして来て欲しいのかなど）を付け加える

#### ② つなぎことば

- ・「おかげで」「～ので」などの言葉で、相手のしたことと自分の気持ちをつなぐ
- ・「～とき」「～たら」「～して」などの言葉で、見たことやしたことと自分の気持ちをつなぐ

	<p>③ くわしい気持ちことば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な言葉を書く「想像以上にすごかった」「決心しました」「チャレンジします」など</li> </ul> <p>④ いろいろな見方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・逆の立場から見てみて書く</li> </ul> <p>⑤ 組み立て（「はじめ」・「中」・「おわり」）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ」に要件を短く伝える</li> <li>・「おわり」に確認や念押しをする</li> </ul> <hr/> <p>○「はがき」に「思い」を込める</p> <p>はがきのやりとりのよさを感じてきた子どもは、はがきに込められる思いについて、「おたより」という言葉から考えた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「おたより」は無限にある。思いや伝えたいことが伝わるなら、全部「おたより」だ。相手に伝えたり、渡したい人に伝えたりすることが「おたより」で、人にあげる役目をしてくれている。つまり、自分の気持ちを相手にあげるのが「おたより」だ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>毎日会っている家族でも、なかなか話せないこともあります。でも、ハガキには書くことができます。ハガキを受け取った家族はちゃんと読んでくれます。きっと、ハガキには感謝や願いなどの思いの強さを伝える力があるんだと思います。ハガキは嘘をつかないと思います。私はハガキの力を信じます。</p> </div> <p>はがきをやりとりしてきた自分を振り返ったとき、自分と他者とをつないでくれた「はがき」というものに込められた気持ちや、それを適切に表現することばに対する気付きや信頼が自覚化された。</p>
<p>研究成果の発表状況</p>	<p>○「きらりおたより」 『今を生き明日をつくる子どもが育つ学校 2018』 上越教育大学附属小学校 2018（予定）</p>
<p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上越教育大学附属小学校2017年研究会において活動公開及び協議会を行い、市内外、県内外の教育関係者に提案</li> <li>○本学学生授業に対する小学校現場での授業参観における活動公開</li> <li>○本学「初等国語科指導法」講義における資料化</li> </ul>